

たきこみごはん

全国福祉保育労働組合
東海地方本部障害協議会NEWS
2007, 12, 17
Vol. 11

「今こそ変えよう! 『障害者自立支援法』全国大フォーラム」に参加して

今回、10月30日に日比谷野外音楽堂にて行なわれました「今こそ変えよう! 『障害者自立支援法』全国大フォーラム」に組合の代表として参加させていただきました。当日の集会での参加人数は、合計で6500人以上でした。

集会では、各種障害や児童関係、移動支援やコミュニケーション支援、医療関係の分野などから実態の報告と意見表明が行なわれました。特に印象に残っているのが、京都市から来られた脳性まひの子を持つ母親の訴えです。現在のままでは、子どもにとって充分なりハビリができない、補装具や通院の負担が大きい、療育の現場でも収入が減り人材の確保が難しいなど、危機的状況にあることなどを報告し、障害者自立支援法の廃止を切実に訴えていました。

政党シンポジウムでは、自民党をふくめた五つの政党が参加し、自立支援法施行状況に対するの評価や今後の見直し点及びスケジュールについて討論が行われました。自民党からは、「今までも国費1200億円の特別対策をしてきた。今後も、利用者負担の上限を下げること、事業者収入減を解消するために施設の定員を余分に見るなど具体的な対策を講じることが我々の責任と考えている。」という報告がなされ、公明党も「今後利用者負担をもう一段階下げられないか考えている。」という意見が出ていました。これに対して野党からは、「応益負担は絶対に必要ない。」「民主党の改正法案を早急に審議すべき。」という意見が出され、会場から大きな歓声が上がっていました。

そして実行委員会は、アピール文として①障害者予算の大幅増②真の障害者の自立地域生活支援に向けた制度の確立③応益負担の廃止④「所得の確保」に関して早急に当事者の参画が十分に保障された検討委員会を立ち上げること⑤支給決定の見直し⑥「報酬単価」・体系の全面的な改善⑦精神障害者の「退院支援施設」の撤回⑧障害児支援の作り直し、これら8項目が採択されました。

今回参加して感じたことは、各種報告では、全国から集まった方々の様々な現状、悲痛な訴えを聞き、身につまる思いになりました。各政党の代表者の意見は、めったに聞く機会が無かったので、とても勉強になりました。一刻も早く「障害者自立支援法」が改正されるよう審議していただきたいと思いき、そのためにも私たちも現場の声を上げ、現状を訴えていくことが重要だと思いき。

やはり一人の力だけでは小さく社会に訴えていくことは困難ではありますが、障害を持つ人の生活を守りたい、ずっと働き続けたいという強い思いのもと、多くの人々が団結して声を上げていくことは、社会を変える重要な第一歩になると、改めて強く感じました。

みなと福祉分会
川又宏樹

障害者自立支援法などをめぐって

「新福祉人材確保基本指針」が8月に告示されました。高齢者・障害職場を中心として、低い賃金水準や労働条件におかれ職員が働き続けられない、人がこないという実態が広がるなかで、私たちのねばり強い運動の成果もあり労働環境の整備への国の責任の明確化など前進的な内容をもったものになりました。

しかし、指針を実効性のあるものにするためには大幅な予算増が欠かせません。指針を生かしていく運動を大きく展開していきましょう。

障害者自立支援法をめぐっては、この秋から愛知をはじめ全国各地で見直しをもとめる集会が開催されました。10.30には東京で6,500人をあつめた大フォーラムもおこなわれました。

福田首相は、抜本的に見直すとは表明していたのにもかかわらず「特別補助の状況を見守って検討する」と態度が後退してきています。厚労省においても「次年度に見直しの考えはない」と強弁しています。

一方、民主党をはじめ野党は、応益負担にもどすこと。報酬を月払い制にもどすことを柱にする改正案を臨時国会に提出しています。しかし、上述の国会状況のなかで審議が進まないままになっています。

一刻も早く審議がおこなわれ、改善がはかられるよう多くの関係者、団体とも力をあわせとりくんでいきましょう。

(総会資料より)

活動の方針

ワーキングプアといわれる状態が、私たち障害者施設—おもに成人分野—で働く労働者にもひろがってきています。働き続けたくとも生活ができないからと職場を去る人たちもでてきています。そして職場には人がはいらす、さらに厳しい状況においこまれていく・・・

この流れを断ち切る私たちの決意が必要です。職場から同一労働でありながら低賃金で働く仲間をなくすこと。将来不安で職場を去る人をださないこと。まさに労働組合の出番です。

分会会議を定例化しひとりぼっちをつくらない。要求をまとめ理事会にぶつける。あきらめないで何度でも理解をもとめる。自治体や国にたいして真摯に訴えつづける。

あたりまえのつみかさねが、打開の一番の近道です。今年も1年、がんばりましょう。以下、1年間大切にしていきたい10のテーマを活動方針としていきたいと思ひます。

〔調査・研究活動〕

- 1 県下の施設・労働者にひきつづき実態調査をおこなっていこう。
- 2 加盟分会の職場状況や労働条件の実態調査をおこなっていこう。

〔学習活動〕

- 3 幹事会で情勢や制度の学習などを位置づけていこう。
- 4 多くの組合員を対象にした学習会をおこなおう。
- 5 福保労や協力する関係団体の主催する学習会や研究会などに参加していこう。

〔組織拡大・強化〕

- 6 障害福祉関係職場に福保労の仲間の輪を広げ新しい分会をつくっていこう。
- 7 幹事会を定例化し方針の具体化と活動の推進をはかっていこう。(ニュースの発行)
- 8 あいち障害者センターや全国障害協議会など関係・上部団体と連携をはかっていこう。

〔国・自治体にむけたとりくみ〕

- 9 自治体にむけ要求をねりあげねばりづよく自治体交渉などをすすめていこう。
- 10 中央・地本の方針に結集し国や厚労省交渉などに積極的に参加していこう。

2008年度予算交渉 障害児分野に参加して

初めて福祉協議会の交渉に参加しました。長年保育園に勤めていたので、保育園関係の交渉の経験はあり、予算等の知識も多少あるのですが、福祉関係の予算等についてはわからないことだらけでした。でも、各発言者の思いはしっかり伝わってきましたし、発言の内容からしくみや矛盾を少しだけですが知ることもできました。

今回、あつた分会から栄養士の正規化で発言した分会員は、組合に加入したばかりです。ドキドキしながらの初めての発言だったと思いますが、とっても頑張って話してくれていたと思います。彼女のがんばりに拍手すると共に、一緒に頑張っていきたいとますます思いました。

福祉関係の学習はもちろん、これからの活動を、仲間を増やしながらか楽しく行っていきたいと思います。よろしくお祈りします。

あつた分会 加納紀子

私も参加しました！

交渉には障害児分野、障害分野、保育分野から参加し、現場の厳しい状況を伝え、要求を訴えました。交渉の中では、同じ子どもなのに通園施設は兄弟減免がないことへの矛盾、おひさま問題や給食の外部委託（障害児総合通園センター）などの課題が出されました。

また地域療育センターの5号館の開設についての要求は継続して行われていますが、ここ数年「できるだけ早期に実現したいが土地の確保が難しい」という回答が続いています。同じ名古屋市中なのに、地域通園だと、訓練や発達相談などいろんな所に行かなければいけないということへの矛盾、重度のお子さんについては受け入れることさえできないということへの矛盾。今の通園の建物の老朽化など、現場で働く職員の感じること、矛盾に思うことを伝え、一刻も早い地域療育センターの設立をと伝えました。地域療育センターの設立のためにはまず、土地探しです。設立のために職員が一丸となつてとりくんでいきたいです。みなさんご協力よろしくお願いします！

予定を30分過ぎましたが、まだまだ足りないぐらいの、熱気あふれる交渉の場となりました。交渉を終えて、まだまだ課題になることはたくさんあるけれど、交渉すること、現場の意見をぶつけることの大切さを感じました。情勢は厳しいけど、子どもたちやお母さんが安心して過ごせること、職員が生き生き働ける職場づくりのために、これからもがんばっていきます！

ちよだ分会 掛川 美和

07年度障害協議会総会・交流会に参加して

今年の総会は、例年とは違う栄にある某沖縄料理店にて行われました。テーマは「くだけた」(?)…。前半30分は総会、後半は交流ということで、ホントいい意味で「くだけた」雰囲気の中、沖縄料理とおいしいお酒、楽しいお話を満喫させていただきました。私自身も遅れて着いたため前半の総会は終わっていたのですが、参加者の自己紹介や分会状況、普段はなかなか話せないそれぞれの「くだけた」話や「浮いた」話も聞くことができ、いろんな意味で団結できた総会だったように思います。最後はお約束のセッションタイムでカチャーシー踊って団結ガンバローって感じでお開きとなりました。障害協議会万歳！

めいほく共同作業所分会 佐藤

たしか息子が三歳になったばかりのころ
私が疲れきってソファーに寝転んでいた時のことです。

息子は突然こういいました。

「おかあさん こんどのおやすみには あおい ほうしをかいにいこう！
それから あおいくつもね。 きっとおかあさんに にあうよ。」

いろいろと悩んだあとで

私はよく

弱音をはくお母さんになっていました。

すると息子は 小さな手を見せてこういいました。

「おかあさん もうすこしたら このてが おかあさんとおなじになるよ。
そうしたら いっぱい おしごと てつだえるよ。」

子どもの前で 夫婦げんかをしました。

そんなことも すっかり忘れていた 二、三日後の夜の事です。

私がひとりでテレビを見ていると

息子が目をこすりながらやってきました。

もう とくに眠っているはずだったのに。

そして こういいました。

「おかあさん だいじょうぶ？ おとうさんはやさしい？」

真夜中にふたりでケーキを食べました。

少しずつ 一歩ずつ

やっと自分が

お母さんだと思えるようになりました。

それは

子どもを抱きしめた数が支えてくれている。

・・・そんな気がします。

俣野 温子著「育児に疲れを感じたら」より

編集後記

11月は総会で盛り上がりました。
新聞は一号遅れとなってしまい
ゴメンナサイ。こりずに新しい
年も原稿をお寄せください。し
んどいとき、小さな灯となるよ
うな新聞を目指して。皆様、よ
いお年を。 K

みなさんの投稿を
新年もお待ちしています

E-mail

takikomigohan06@yahoo.co.jp